

| | | | |
|--------|---------------------------------------|------|--------|
| 団体名 | 兵庫県高等学校教育研究会 生物部会 西播磨支部 (姫路城自然調査グループ) | | |
| 団体の所在地 | 相生市 | 代表者名 | 山下 明 良 |

| | |
|----------------------------|--|
| 1. 事業名 | 姫路城(周辺)自然調査 |
| 2. 実施期間 | 平成 22年 2月 1日～平成 23年 3月 31 日 |
| 3. 主な実施場所 | 姫路市 姫路城(周辺) |
| 4. 活動形態 | 調査活動 |
| 5. 活動内容・結果 (参加者、階層・人数等) | <p>・2年目の中間発表会(2)を受け、平成23年度の調査をした。原始林については植物・植生調査(3回)鳥類調査(4月から7回)、昆虫調査(4回)、タンポポ調査(8回)そのDNA調査(5回)、堀の生き物調査(9回)堀の樹木調査(4回)などを行った(延べ40回、参加教師46名、参加生徒140名)。そして、ほぼ調査を完了したが、今後も継続調査を行う予定である。</p> <p>・その自然調査を受け、姫路城自然調査最終発表会(平成24年3月31日実施)自然調査した内容をその調査高校、教師などによる発表(堀の樹木、昆虫、タンポポ調査、原始林の地層、鳥類調査など)、「姫路城の魅力を語ろう」のテーマでシンポジウムを行い、いろいろな分野から魅力を語り合った。姫路市民、中高生高校教師など56名参加。</p> |
| 6. 成果・反響・ 反省点等 | <p>・発表会により、参加市民による励ましとアドバイスをいただき、高校生にとって自信を持つようになった。</p> <p>・昆虫調査ではオサムシ類が発見できなかったので春の継続調査を予定している。鳥類は季節ごとにいろいろ野鳥がいて、多様化を保っている。タンポポ調査では外来種特に雑種化が進んでいる、特に天守閣付近にアカミタンポポが多くあった。堀の生き物も外来種を含め、一定の生態系(多様化)を持っている。堀の樹木調査では原始林と違ってヒトの手が加わった樹木が見られた。姫路城の自然は外来種が多く入り、一定の生態系(多様化)を持つことがわかった。</p> <p>・「姫路城の原始林をどのように保全するか」基本計画が立てられた(この調査が役立ったと思う)。</p> <p>・今後の継続調査の資料にする意味でも、この調査結果を「姫路城の自然(仮称)」として、報告書にまとめた。そして、特に小・中・高校生の若い世代を含め、多くの市民に姫路城の自然に興味を持ってもらいたい。そうすれば、この生態系をどうすれば答がでてくると思う。</p> |
| 7. 成果物 | なし。しかし この調査結果をまとめ、報告書を来年度中につくり、地元の小・中・高校に配布予定です。 |

8. 活動写真・説明



最終報告会



姫路城タンポポ調査